

国粹建築研究所及び二本松孝蔵の設計活動に関する研究

建設工学専攻
建築史研究

ME16050 篠原 直通
指導教員 伊藤 洋子

1. 研究背景・目的

埼玉県近代和風調査（平成27～28年度）に参加し、大宮区高鼻町の武蔵一宮氷川神社（以下大宮氷川神社）の勅使斎館及び社務所と埼玉縣護國神社は国粹建築研究所と呼ばれる民間設計事務所によって、同時期に設計されたことがわかった。

本研究では埼玉県近代和風調査における埼玉縣護國神社及び大宮氷川神社の調査結果をもとに、二本松孝蔵と国粹建築研究所の設計活動について考察する。さらに、国粹建築研究所が設計した他の作品についても国立国会図書館や埼玉県立文書館等を利用して資料を調査し、まとめる。

2. 研究方法

- (1) 埼玉県近代和風調査による調査結果を元に平面図を作成
- (2) 国立国会図書館及び文書館を活用し、二本松孝蔵の設計作品について調査
- (3) 埼玉県護国神社を訪問し、聞き取り調査を実施

3. 二本松孝蔵と国粹建築研究所



国粹建築研究所
蔵孝松本二

二本松孝蔵は内務省神社局の技師である角南隆（すなみたかし）の配下で活動していた技術者である。昭和戦前期に神社営繕事業が増えると、角南は技術者を独立させ民間の設計事務所を開かせ、内務省から設計の仕事を行わせるという形をとった。このとき、二

本松が昭和2（1927）年に開設したのが、国粹建築研究所である。国粹建築研究所は栃木縣護國神社などを設計し、そこには角南の設計理念が取り入れられている。

表 1 二本松孝蔵の経歴

	二本松孝蔵の経歴
明治17（1884）年	福島県に生まれる
明治40（1907）年	工手学校本科建築学科卒業
大正6（1917）年	内務省神社局技手拝命、伊勢神宮及び明治神宮の造営従事
昭和2（1927）年	国粹建築研究所開設
昭和20（1945）年	国粹建築研究所閉鎖
昭和21（1946）年	比叡山延暦寺修理技師拝命
昭和23（1948）年	日光東照宮工務技師拝命
昭和27（1952）年	栃木県建築士会設立発起人
昭和47（1972）年	逝去

4. 埼玉縣護國神社

護国神社は、明治時代に日本各地に設立された招魂社が一斉に改称して設立した神社である。護国神社は、

戊辰戦争以降の国事殉難者、戦没者、現在は自衛官や警察官の霊を英霊として祀っている。

埼玉縣護國神社は氷川神社北側、大宮公園内に鎮座する旧指定護国神社である。昭和に入ると満州事変、上海事変などが続き埼玉県でも招魂社建設の機運が高まり、昭和9年「埼玉県招魂社」が竣工し、昭和14年4月に「埼玉縣護國神社」となった。

神明造の本殿と拝殿を祝詞舎で繋ぎ、社殿はほぼ東面する。拝殿の南側にのみ翼舎が突出する珍しい非対称形の社殿である。境内には社殿、社務所、倉庫、鳥居、手水舎の他、埼玉県傷痍軍人の塔、護国神社修復記念碑などが建っている。

本殿と拝殿は祝詞舎を介して繋がる。拝殿と翼舎の各北西側端部から瑞垣が延び、本殿と祝詞舎を囲む。屋根はいずれも茅葺を模した銅板葺である。

聞き取り調査から、埼玉縣護國神社に関して以下の点が明らかになった。

- ・神明が基本形であるとの回答を受ける。流造が主流となった現代の護國神社の中でも、埼玉縣護國神社は靖国神社の影響を強く受けた形を保った神社と言える。
- ・大宮氷川神社公園内に暫定的に建設されたのが始まりであり、当時は土地が狭かったため、翼舎は片側のみに。大宮氷川神社の池の北側に移す案が持ち上がったが、終戦に伴い取り消しになり、非対称系の形を保ったまま現在に至る。

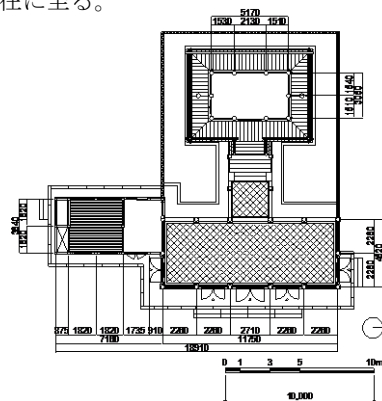


図1 埼玉縣護國神社 平面図

また、埼玉県立文書館所蔵の資料「県社以下神社、大宮市埼玉県護国神社境内施設指導技術官派遣申請書進達」では『埼玉縣護國神社ノ儀現狀境域狹隘ニシテ～隣地を買収シ境内を拡張シ施設改善整備ヲ致シ～角南技師派遣～』と書かれており、敷地・施設の拡張が議論されていたことが伺える。

5. 武蔵一宮氷川神社 勅使齋館及び社務所

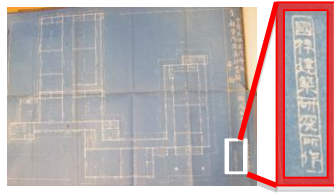
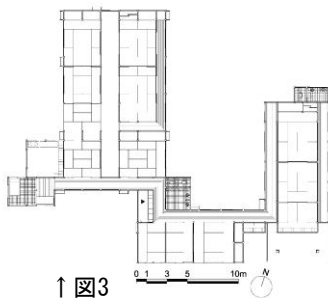


図2 国粋建築研究所
印鑑

武蔵一宮氷川神社所蔵の青図の中で、社務所、勅使齋館、手水舎の図面には「国粋建築研究所」と書かれた印鑑が押されていた。

・ 社務所



↑ 図3
大宮氷川神社社務所平面図
昭和9（1934）年

国粋建築研究所による社務所は前身建物と比べかなり大型化し、中廊下式で7室と炊事場・潔斎所のある棟、参道に平行に面した片廊下の棟、両側に廊下（縁）があり、続き座敷と式台玄関のある棟が全体でコの字型に配されていた。現存するのはこのうち後者2棟で、中廊下式の棟はRCの現社務所（神社会館）に建て替えられている。

・ 勅使齋館

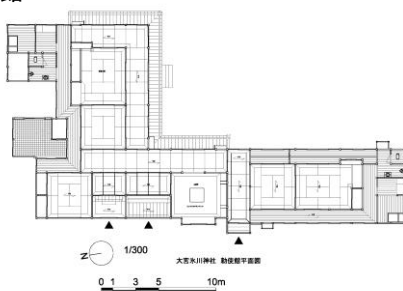


図6 大宮氷川神社勅使齋館 平面図

建物の西面ほぼ中央にある式台は勅使のための入口で、勅使は奥の続き座敷および畳敷入側の先端（建物北東隅）にある便所と潔斎所を利用する。随員は式台右手の玄関から入り、右手すなわち南側に延びる続き座敷とその先にある便所・潔斎所を利用する。使用者によるゾーニングが明確になっている。

5. 二本松が手がけたその他の建築

二本松孝蔵は昭和戦前期を中心に数多くの神社造営に携わっている。そのうちの1つである栃木県護国神

社の造営関係資料では、「環境・森厳ナラザル、参拝ニ不便等護國ノ英霊鎮座ノ地ニ適セザル」として、二本松孝蔵の設計で社殿の造営を行なったとしている。

表2 二本松孝蔵及び国粋建築研究所の設計作品

(参考文献③、⑧、⑪より作成)

社格	府県	神社名	竣工年月
別格	鳥取	名和神社	昭和7年
官中	山口	住吉神社	昭和7年
別格	鳥取	名和神社	昭和8年
官大	鹿児島	鹿児島神宮	
官大	島根	出雲大社 勅使齋館	
別格	高知	山内神社	昭和9年
国小	鹿児島	枚間神社	昭和11年
	栃木	栃木縣護國神社	昭和15年
	宮城	宮城縣護國神社	
	福島	福島縣護國神社	昭和12年
	秋田	秋田縣護國神社	昭和15年
	鹿児島	鹿児島縣護國神社	昭和23年

6. 考察

角南隆のもとで活動していた二本松孝蔵は国粋建築研究所を設立し、角南の指示の下で神社建築の造営を行っていた。国粋建築研究所は護国神社を初め角南の考えに合致する設計を行っていたが、埼玉縣護國神社のように異質な設計作品も見られる。二本松の経緯や当時の角南資料からは、頻繁に行われた神社造営事業と、それに伴う人手不足に陥っていた昭和戦前期の時代背景が垣間見え、左右非対称な埼玉縣護國神社の社殿はその顕れであると言える。また、昭和10年代に多く行われた護國神社の造営からは、度重なる対外戦争による戦没者や参拝者の増加に配慮していた当時の神社造営事業の様相を垣間見ることが出来る。

7. 参考文献

- ①「建築技師・二本松孝蔵と「天野家住宅」について」 日本建築学会東北支部研究報告集計画計第79号収所 速水清孝・狩野勝重 平成28（2016）年
- ②「出雲大社勅使齋館社務所の建築」 二本松孝蔵著 『東洋建築』 相模書房 昭和12(1937)年
- ③「護國神社建築計画に就て」 建築世界 昭和19（1944）年
- ④『埼玉県の近代和風建築』 埼玉県教育委員会 平成29(2017)年
- ⑤「近代の神社建築」 藤岡洋保 明治聖徳記念学会紀要 平成18（2006）年
- ⑥ 武蔵一宮氷川神社所蔵資料
- ⑦ 日本建築工芸設計事務所所蔵資料
- ⑧『近代の神社建築行政に関する研究』 2000年 藤岡洋保
- ⑨『山内神社御造営市誌』 別格官幣社奉祀期成会昭和10（1935）年
- ⑩「県社以下神社、大宮市埼玉縣護國神社境内施設指導技術官派遣申請書進達」 埼玉県立文書館所蔵
- ⑪『角南隆と護國神社の設計に関する研究 一山梨縣護國神社を含む主要護國神社を例に一』 平成25年度芝浦工業大学卒業論文 宇野太一朗 pp41-79